

知事との県民対話集会（箕輪町）概要

- ・開催日時 令和5年2月16日（木） 午前10時30分から正午まで
- ・会場 箕輪町立木下保育園 遊戯室
- ・参加者 県民37名、白鳥箕輪町長、阿部知事、竹村上伊那地域振興局長
- ・テーマ 持続可能なまちづくり「ゼロカーボンの推進」

・主な発言（要旨）

【参加者】

- ・EVは補助金があっても高価であり、なかなか手が届かない。中古車であれば新車の半額程度で買えるが、あまり距離が走れないものに手が出せないということもある。県で中古EVの購入の後押しができないか。
- ・充電インフラの整備について、県ではどのような施策を進めようとしているかお聞きしたい。

【知事】

- ・自由主義経済の中で、行政が中途半端に介入すると市場が崩れてしまう。例えば、空き家のように市場が回らないところは行政で補完するということはあるかもしれない。
- ・長距離移動時の充電が課題。地図上で充電スタンドの設置箇所を把握できるようにするとともに、全ての道の駅のほか、主要観光地にも設置を進めていきたい。また、充電スタンドの設置については県の考えをオープンにし、企業とも協力して進めていきたい。

【参加者】

- ・農業を営んでいるが、日々の気候変動が大きく栽培が大変である。令和元年の台風19号災害では、高密度栽培しているりんごの棚が風で倒壊した。今は安定して農業を続けていくことが大変な時代。生産量が変わらない中で費用をかけて被害防止、補強、改良していくことが難しい。
- ・ぶどうの露地栽培を行っているが、大雨など天候の変化に弱い。雨除け機能のみのハウスでは採算が取れない状況であり、支援をお願いしたい。
- ・栽培圃場に太陽光パネルを設置できると、売電収入で設備の改修や栽培を安定させるための部分にお金を使うことができるようになる。

【知事】

- ・農業は常に自然との闘いであり、どこまでを税金で、どこまでを自助努力でリスクヘッジするか、農家の皆さんと市町村、県で議論していく必要がある。
- ・栽培圃場への太陽光発電パネルの設置については、景観の問題を含め、地域で丁寧に合意形成を図っていく必要がある。

【参加者】

- ・子どもが学校でゼロカーボンを学び、それを家庭に持ち帰れば親の意識も変わる。小学校5年生以上推奨の信州ゼロカーボンチャレンジはあるが、低学年でも授業などに取り入れてはどうか。

【知事】

- ・子どもが学ぶことで家庭での行動変容にもつながるとい部分は同感で、県としても取り組んでいかなければいけないと考えている。
- ・学校と地域がどうあるべきかの話は表裏一体であり、来年度、信州学び円卓会議をつくり、学校や教員のあり方、これからどういう教育にしていけばよいかなど、教育のシステムについて考えていきたい。

【参加者】

- ・電力の再エネ化は一事業者だけでは難しい。事業者が所在する自治体を超え創エネポテンシャルの高い地域と連携した産業界のエネルギー自立化を県が主導し、広域での整備や支援をしてもらうことができないか。

【知事】

- ・自治体を超え広域的にエネルギーの生産・活用を考えていくこと、また、リニア時代を迎えるにあたり、伊那谷全体で再生可能エネルギーについて考えていくことは重要だと思う。

【参加者】

・部活動の地域移行に係る指導者不足と企業の人材不足の解決策として、引退したアスリートを呼び込んでみてはどうか。平日は企業で働き、終業後や休日に部活指導に携わってもらおう。新たな雇用形態をつくり、人材の流入を進めてはどうか。

【知事】

・アスリートの受入れは企業と地域がwin-winになるものであり、スポーツ関係者との対話をしながら検討していきたい

【参加者】

・高校再編に伴う技術新校について、上伊那は南北に長く上伊那農業高校の校地にまとめると南部の高校生は下伊那に流れてしまう。南、北に技術新校を1校ずつ設置できないのか。

・懇話会が実施されているが、地元への説明がなく、意見を聴取する気もない。

【知事】

・一般論として教育委員会にはしっかり考えてもらいたいと言っている。人口が減る中で高校再編・統合はやむを得ないと思うが、特色ある学校にしていく必要があり、また、中高一貫校や小中学校と高校の教員の相互の乗入れなど、システムを変えていかなければならないと思う。

【参加者】

・畜産業の経営は厳しい。リニア開業後のインバウンドも見据えて、環境に配慮した商品開発・ブランドイメージを打ち出して販売促進を図れないか。

【知事】

・食肉処理施設については全農や市町村と協力して期待に応えられるものを整備していきたい。
・県外に向けたブランド化と同時に、観光関係者とも連携して地元での消費も増やしていきたい。
・来年度、工場等で生産するもののライフサイクル全体のカーボン排出量を可視化して、それを削減する努力を応援したいと思っているが、畜産業などにも対象を広げられるか考えたい。環境意識の高いヨーロッパの人には売りになると思う。

【参加者】

・保育士が不足している。臨時職員の給料が安いとため、保育士を目指す人が少ない。

【知事】

・来年度、私立保育園の0歳児保育について、国の基準以上に配置した場合の補助をすることとしている。また、1人当たりの賃金単価も引き上げる。
・保育士の手厚い配置、処遇改善、人員を確保する取組は重要。子育て経験をした方々に協力してもらうのもひとつではないか。
・税金で負担しているがゆえに給料が上がらないという側面はある。財源をどうするかが課題である。